

平成29年度全国学力・学習状況調査結果

平成29年4月18日(火)に実施された全国学力・学習状況調査結果の概要について、お知らせいたします。この調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを御理解ください。

1 全国学力・学習状況調査の実施状況について

(1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ この取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

中学校、中等教育学校及び特別支援学校中学部の3年生

(3) 調査の内容

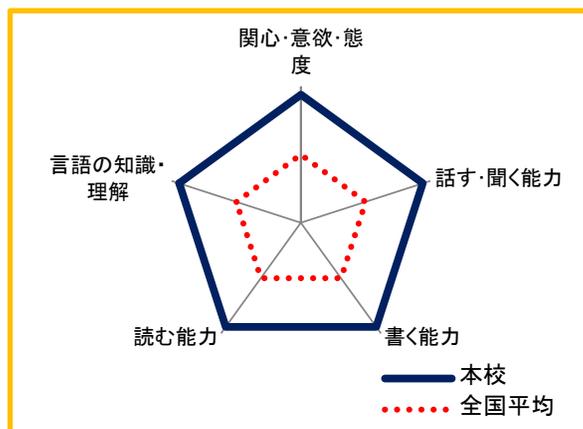
- 教科に関する調査(国語、数学)
 - ア 主として「知識」に関する問題(国語A、数学A)
 - イ 主として「活用」に関する問題(国語B、数学B)
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

2 調査結果の概要

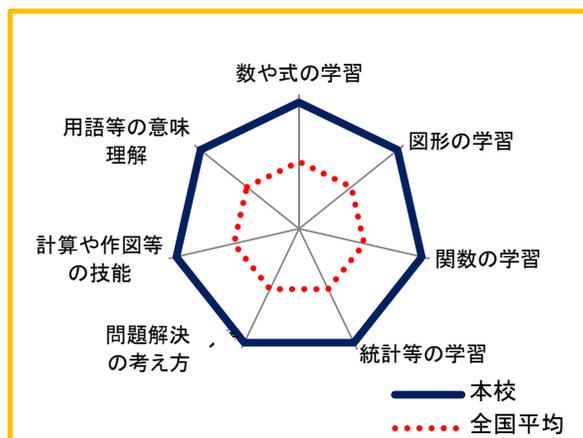
○ 教科に関する調査結果(平均正答率 %)

教科	本校	全国	全国との差
国語A(主として知識)	92	77	+15
国語B(主として活用)	92	72	+20
数学A(主として知識)	89	65	+24
数学B(主として活用)	75	48	+27
総合	87	66	+21

【国語】



【数学】



○ 項目別調査結果(平均正答率 %)

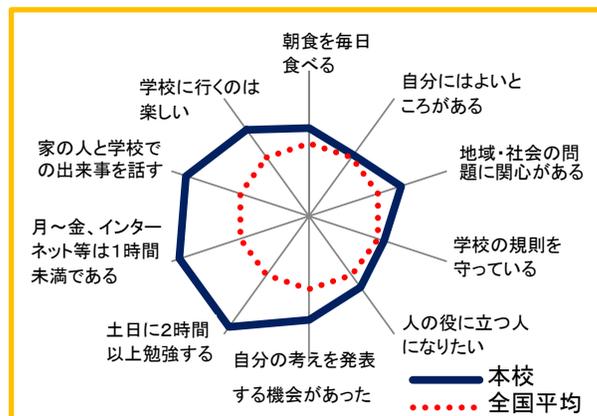
教科	項目	本校	全国	全国との差
国語A(知識)	話す・聞く能力	94	75	+19
	書く能力	97	86	+11
	読む能力	92	74	+18
	言語の知識・理解	90	77	+13
国語B(活用)	関心・意欲・態度	86	56	+30
	話す・聞く能力	91	72	+19
	書く能力	88	61	+27
数学A(知識)	数や式の学習	93	70	+23
	図形の学習	87	66	+21
	関数の学習	84	57	+27
	統計等の学習	86	58	+28
	計算や作図等の技能	94	68	+26
	用語等の意味理解	82	60	+22
	問題解決の考え方	66	37	+29
数学B(活用)	数や式の学習	80	46	+34
	図形の学習	74	47	+27
	関数の学習	77	51	+26
	統計等の学習	73	49	+24
	計算や作図等の技能	93	61	+32

※全国の前平均正答率は、公立学校の平均正答率を表しています。

○ 質問紙調査結果(平均回答率 %)

項目	本校	全国	全国との差
朝食を毎日食べる	97	93	+4
自分にはよいところがある	71	71	0
地域・社会の問題等に関心がある	65	59	+6
学校のきまりを守っている	97	95	+2
人の役に立つ人になりたい	95	92	+3
自分の考えを發表する機会があった	92	84	+8
土日に2時間以上勉強する	68	42	+26
月～金、インターネット等は1時間未満である	66	50	+16
家の人と学校での出来事を話す	88	74	+14
学校に行くのは楽しい	89	81	+8

※全国平均回答率は、公立学校の平均回答率を表しています。



3 分析結果と今後の取組

【国語】

「知識」に関する問題では、平均正答率が92%と、全国平均77%を上回っており、概ね良好です。領域別では、「書くこと」が97%と最も高く、「話すこと・聞くこと」が94%、「読むこと」が92%でした。最も低いのが、「言語の知識・理解」で、本校は90%と全国平均77%を上回ってはいるものの、「規模」「延期」等の漢字検定5級程度の漢字が書けていなかったり、適語補充で条件を満たした熟語が書けていなかったりしており、言語事項の学習の取り組み方を見直す必要があります。

「活用」に関する問題においても、平均正答率が92%と、全国平均72%を大幅に上回っており大変良好です。しかし、「話すこと・聞くこと」91%、「書くこと」88%、「読むこと」93%に比べて、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(この表の項目にはありません。)が80%と低いのが気になります。

「知識」「活用」に共通して言える本校の特長は、短答式や記述式の問題において、全国では無回答が目立っているのに対して、本校ではほぼ、無回答率が0%という点です。本校生徒が「書くこと」に意欲的に取り組む姿勢を持っていることの表れだと思います。

今後の取組としては、課題である「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率を上げるため、常用漢字ダブルクリアや総合国語便覧を有効活用し、言語についての知識・理解・技能を伸ばしていきます。また、現代文グレートラーニング40や必修テキストなどのテキストを授業と併用して活用し、「書くこと」「読むこと」に更に力を入れたいと思います。さらに、ブックトークや企画会議、ワールド・カフェなどの話し合い活動を積極的に授業に取り入れることで、「話すこと・聞くこと」の能力も高めていきたいと思っています。

【数学】

「知識」に関する問題では、全国平均正答率と本校の正答率の調査結果と比較すると、約24ポイント上回っています。学習指導要領に示されている領域ごとの結果をみても、全領域において全国平均を約20ポイント上回っており、特に、関数や資料の活用の分野に関しては、約27ポイント上回っています。ただ、本校の設問別正答率をみると、図形に関する問題の正答率が他の問題に比べるとやや低い結果となっています。今後、図形を読み取る力、論理的記述力を身に付けさせる必要があります。

「活用」に関する問題では、全国平均正答率と本校の正答率の調査結果と比較すると、約27ポイント上回っています。各領域の結果をみても、特に数と式の領域では全国平均を約34ポイント上回っています。ただ、与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現する問題や、問題を解決する方法を数学的に説明する問題の正答率が低い結果となっています。今後、解法を導くための過程を、適切な語句などを使って説明する力を身に付けさせる必要があります。

今後の取組として、教材・教具の工夫を進めて更なる授業改善を図り、図形や表を読み取る力や表現する力を養いたいと考えています。また、個別の添削指導や考査問題の工夫を通して、記述力の強化に努めていきます。今後も「日々の課題」、「週末課題」などを通じて基礎学力の定着を図り、応用力の向上に努めていきたいと考えています。

【生徒質問紙調査】

基本的な生活習慣はよい傾向にあり、インターネット等の利用時間についても全国平均に比べ、かなり少ない結果となっています。学習時間では、休日に2時間以上学習をする生徒の割合について約26ポイント全国平均を上回っており、家庭における学習への取組状況も良好です。また、「学校に行くのは楽しい。」と思っている生徒が89%と全国平均より多く、学校での出来事についても家庭でよく話をしている様子が見えます。

本校は、6年間の計画的・継続的な教育指導により個性や創造性を伸ばし、幅広い年齢層の生徒が6年間一緒に学校生活を送る中で、社会性や豊かな人間性を育む教育を進めることができます。今後も、心豊かで主体的に行動できる生徒の育成に努めたいと考えています。